NANZAN
UNIVERSITY

2015 年度学長方針

南山大学の皆さん

学長　ミカエル・カルマノ

Ⅰ．基本方針　　共通の出発点

カトリックの高等教育機関として創立された南山大学において、そのカリキュラムには、宗教、とりわけキリスト教に関する必修科目が一貫して設けられてきました。こうした科目の重要性や実用性については、学生や教員によって、折にふれて議論され、そして疑問視されたこともありましたが、このような議論を通して必然的に一つの事実が明らかになります。それはあらゆる教育機関に当てはまりますが、全学生を対象とする必修科目は、その機関（大学）のカリキュラムがどのようなものであるかを象徴的に示す役割を果たしているという事実です。受験生はおそらく、大学のブランド価値や特定の人気のある学科に目を向けますが、（特に一般教育プログラムにおける）必修科目もまた、進学希望大学を決める理由の一つとなりうるものなのです。

1. 一般教育カリキュラムにおける必修科目の役割

一般教育カリキュラムの必修科目には二つの重要な役割があります。一つは大学の公式見解として、各学部・学科が開講する科目の根底にある共通の目的を説明し、それらを包摂する方向性を指し示すことです。そのような役割を必修科目が果たせないのであれば、カリキュラムはそれぞれ関係のない科目の単なる寄せ集めに過ぎないでしょう。二つ目は、学生が新しい方向に向かうために、各人が選択を要する際に、それを助ける基本的な判断材料としての役割です。

一般教育のより字義的な意味合いからは、一般教育が果たす役割について、これとはまた少し異なった側面も見えてきます。すなわち、一般教育は、社会の一員となるために各学生が必要とすることを明示するという側面だけでなく、異なる知識・能力を持つ多様な人々を何が結びつけているかを示すという側面を持っているのです。母語や外国語の学習は第 1 の側面の好例です。第 2 の側面は人々が共通に持っている価値を学ぶことです。それはつまり、外国語の知識は、それが人間の価値に根ざしたものでなければならず、人間の価値を信じ、それを表現するためにすぐれた言語運用能力が求められる、ということな

のです。

2. 宗教、キリスト教の必修科目

一般教育についての以上のような議論は、宗教・キリスト教についての共通科目が、南山の教育に何をもたらすのかという問題を改めて考える契機ともなります。宗教がグローバル社会において、不和を生じさせるほどの力であるとしばしば見なされる（そして、最近の出来事を思うと、多少なりともそれを認めざるを得ない）時代では、宗教の「言語」を学ぶことには絶対的な必要性があり、価値や宗教について各人が意思決定していく必要があります。このなかには、暴力や脅しではなく、思いやりと理性によってこうした課題にどのように答えるか、そして多様な宗教がある中で、我々を人類共同体としてひとつにつなぎ合わせる糸をいかに見つけ出すか、を学ぶことも含まれています。

言うまでもなく、宗教の教義や道徳といった狭い事柄に焦点を当てるだけでは十分ではありません。フランシスコ教皇は 2013 年 9 月のインタビューで一つの方向性を示しました。「道徳や教義の束縛よりも先に、神の加護（saving love of God）があるのだ。今日ではしばしば順序が逆であることが多いように思われる。」教会は各宗教伝統の中心と考えられる教義や道徳を教えることを普遍的要求としてしばしば強調する傾向にあります。しかしキリスト教の本当のメッセージは神の加護であり、それには多くの側面、表れ方があり、多様な方法で人間にもたらされるのです。

3. 一般教育の新しいビジョン

全ての学生が受講する共通科目を強調することは一般教育の基本的側面ですが、今必要なものは従来からある教養教育の最新版ではなく、それ以上のことです。一般教育プログラムが、共通の目的と各学生の選択を示すという役割を果たすのであれば、全学部の学生に同じ必修科目を提供することよりも遙かに多くのことを意味します。必修科目の開講だけであれば、大学教育はそれぞれ分かれた科目を一般教育カリキュラムによって結びつけたもの、にしかならないでしょう。必要なのはむしろ、「絶えざる自己改革」の精神に従い、一般教育と専門教育の区別のあり方を見直すことなのです。

南山大学が提供できるものは何でしょうか？　南山大学は何を提供するべきなのでしょうか？　学生に学んでほしいことは何でしょうか？　我々の前にある課題は、学部・学科間の垣根を低くし、真に一つのキャンパスすなわち国境のない学びの場を作ることです。そしてそれこそがより良い、より平和なグローバル社会を築くために南山大学の学生と教職員が新しい方向に踏み出していく挑戦なのです。

Ⅱ．最重要課題

1. 学部改組とキャンパス統合

最重要課題としてまず、「絶えざる自己改革」のもと、南山大学の教育を、世の中のニーズに合うように、特に南山大学への潜在的な進学者の希望に応えるように、変えていくことが挙げられます。

その一つの具現化として、学部改組は、全学を挙げてこれに取り組まなければなりません。外国語学部を南山大学の最も社会的評価の高い学部の一つとしてさらに魅力のあるものに改組し、短期大学部の発展的解消とあわせて、南山大学の国際性を高い次元で実現する新しい学部、もしくは学科を設置することが特に重要です。さらに、キャンパス統合に際して、総合政策学部の定員を適切な規模にしていくことも重要です。またその他の学部においても、より魅力的な学部となるよう学科・コースの体制やカリキュラムの再検討などが求められます。南山大学グランドデザインの趣旨を再確認し、『個の力を、世界の力に。』とのビジョンのもとに、こうした学部改組実現のための検討を全学で協力し、本年度はさらに前に進めていってください。そして南山大学としてのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定します。

現在、キャンパス統合が進行しています。キャンパスを単に一つにすることに留まらない、この「統合」という教育環境の変化を活かし、それによる効果を最大化するための施策を準備・実行していく必要があります。具体的には、学部改組やキャンパス整備に加えて、学部の垣根を超えた履修体制を構築・発展させるよう検討してください。各学部・学科の専門科目のうち全学に共有されうるもの、および他学部・他学科と連携しうるものの検討をお願いします。また南山大学が一つのキャンパスになるこの機会にキリスト教教育とともに全学で共有される共通教育のさらなる強化を図ってもらいたいと思います。基本方針で挙げた共通教育の役割を認識し、学生の自主的な学びを支えるカリキュラム設計をお願いします。合わせて、それが学生にわかりやすいように、科目間のつながりを可視化した授業科目のナンバリングやカリキュラムツリーの作成といった工夫も必要です。

2. さらなる国際化の推進

国際化は今年度も引き続き本学にとって重要な課題です。国際性は南山ブランドを構成する重要な要素の一つです。その強化のために、留学方法の拡充や手厚い留学支援体制の整備などを実現していかなければなりません。南山大学グランドデザインを踏まえて作成された国際化ビジョンに従い、本学のさらなる国際化を進めていきます。

教育面では、例えば外国語を使用する授業では、配付資料を外国語のものにするなど、

学生が外国語を使用する機会をより多く設けることが望まれます。国際科目群を質・量ともにさらに充実させていくことも重要です。国際科目群の発展のために、各学部でその必修化も検討してください。外国人留学生別科の学生については、クォーター制の導入に合わせて、学部生とともに受講できる科目を増やすことも検討してください。国際性の強化に派遣・受入留学生の増加や短期留学プログラムの開発が重要であることは言うまでもありませんが、国際性を育む多様な教育として、国内外を問わず外国語を使用するインターンシップを促進することや、カトリック大学間のネットワーク等を活かしてサービス・ラーニングを取り入れた授業を立ち上げること、さらにロゴスセンターが本学に加わることを一つの契機に、国内外のボランティア活動を通じた学習を支援していくことなど、教育制度の多様化・柔軟化の検討をお願いします。

このような教育面はもちろん、研究面での国際化のためにも、国内外の大学・研究者との連携および協力体制をより一層強化していくことが重要です。個々の教員が持つ研究上の国際的なネットワークをさらに拡げていくことは、当該の教員だけでなく大学にも国際化という点で利益をもたらすものと思われます。そのためには、国際的な共同研究を奨励し、組織的に支援することも重要であると考えます。今年度から第 3 期の国際化推進事業が始まりますが、学内の資金だけではなく学外資金を積極的に獲得してください。

3. 自主的学習を促す学習環境

今日、大学には学生の自主的な学習を促進する学習環境を整えることが求められています。本学ではクォーター制の導入を控えて、この際にそのような環境が整備されるように授業改革が検討される必要があります。一般的にも言われるように、反転授業などアクティブラーニングの導入は、学生の自主性を促すことになるでしょう。授業改革の他にも、学習支援体制の整備に向けた取組みとして、自主的な協同学習の場としてのラーニング・コモンズの設置、学生に自己の学びを俯瞰させる学習ポートフォリオの導入などが考えられます。学生の自主的な学習を支援していくうえでも、学習行動の把握は欠かせません。これを組織的に実践していくため、IR(Institutional Research)室の設置は喫緊の課題です。

Ⅲ. 将来構想

1. 組織再編

現在南山大学は 18 歳人口のさらなる減少に備えて、大学を挙げた組織再編のただなかにあります。その中心は、すでに最重要課題として挙げた学部改組とキャンパス統合ですが、

他にもそのあり方が検討されるべきいくつかの組織があります。ビジネス研究科は今後のあり方についてその存続を含めて検討が必要です。法務研究科については他大学とのさらなる連携の推進が求められます。またその他の研究科については、多様な大学院生の受け入れ、特に社会人のさらなる受け入れを図るため、社会人の入学者にとってより魅力的な学習環境を提供していくことや、既存の学問分野にとらわれないテーマの教示など、社会のニーズに応える大学院教育を目指して、検討を行ってください。

キャンパス統合を契機として設置される情報センターと国際センターは、それぞれ、本学の情報環境の整備を進めていくための拠点、教育・研究両面における国際化を進めていくための拠点となります。したがって、両センターは共に南山大学の将来構想を実現するうえで不可欠な機関となります。両センターについて、今年度も引き続き設置準備を進めていってください。

公平・公正な大学運営、ひいては本学の社会的信頼を維持するためコンプライアンス室の設置を学園との連携を図りながら検討してください。

2. キャンパス整備

本年度は理工学部が名古屋キャンパスに移転し、いよいよキャンパス統合が実行段階に入ります。キャンパス統合を完成させるために今年度も将来構想推進室を中心にキャンパス整備を進めていきます。新しく建築された S 棟は、学生の福利厚生にも十分配慮されています。学生が十分にそれらを活用することを望みます。情報化社会と呼ばれて久しい昨今において、キャンパスの情報通信技術(ICT)環境の整備は学習環境の整備の一環として最も重要な課題の一つです。本学では、学生が大学での学習に自身の情報通信機器を使用できるような環境を整える予定です。本年度から S 棟をはじめ一部において無線 LAN の利用が可能になりました。これを全学において利用できるよう引き続き ICT 環境の整備をお願いします。

2017 年度には総合政策学部が名古屋キャンパスに移転します。これに合わせてキャンパスの第 2 期工事が今年の夏前から開始されます。レーモンド設計を含む伝統を受け継ぎながらも、策定されたキャンパス整備計画に基づき、優先順位をつけてこれを進め、新しい南山大学にふさわしいキャンパスにします。他方で 2017 年 3 月までは、言うまでもなく瀬戸キャンパスは本学のもう一つのキャンパスです。キャンパス統合が完了するまで、瀬戸キャンパスについても十分配慮し、その教育研究環境が損なわれることがないように努めます。また、理工学部の移転によりさらに増加する学生の名古屋キャンパスへの通学についても、工事期間において十分な安全が確保されるよう配慮をお願いします。

Ⅳ. 教育・研究

1. 留学の促進

留学生の増加と留学に関する制度の充実は、本学の国際化の中心に位置づけられます。送り出しにおいても受け入れにおいても留学プログラムをさらに多様化し、外国語学部だけでなく全学において留学生を増加させることが重要であることは言うまでもありません。そのために、引き続き海外の協定校を増やしていってください。国際科目群の充実とともに、交換留学生の学部での受け入れの検討も開始してください。日本語未修学生の受け入れも各学部での検討課題です。協定校の拡大に伴い、学生寮などのハウジングを含めた受け入れ態勢の整備も不可欠です。加えて、学部ごとに特色のある短期留学プログラムの開発も全学部において積極的に行ってください。こうした留学を金銭的に支援するための奨学金についても、財政的な裏付けの検討が必要です。また国際交流のすそ野を広げるためにも、実際の移動を伴う留学だけでなく、ICT を活用した遠隔授業等により、本学に居ながらにしての交流を可能にする学習環境の整備も検討してください。

2. 他大学との協働

本年度も国内外の大学との連携を強化していくことは重要です。国内の大学では特に、豊田工業大学と上智大学との関係をさらに深めることは大きな効果を生み出すでしょう。豊田工業大学とは、これまで行われてきた単位互換や図書館の相互利用などの教育・研究面での様々な協働を継続・発展させていきます。上智大学とは上南戦など深い協力関係にありますが、いっそう連携を強化していきます。

国内外のカトリック系大学との関係の強化は、留学を促進することにもつながります。現在、フィリピン共和国のサン・カルロス大学との間では教員交換プログラムを、大韓民国の韓南（ハンナン）大学、西江（ソガン）大学校と本学の法学部・法務研究科との間では学生交流・学術交流を実施しており、また東南・東アジアカトリック大学連盟（ASEACCU）会議には毎年本学の学生や教育職員が参加しております。今後も、国内外のカトリック大学との連携の強化を各学部・研究科で積極的に検討してください。

3. カリキュラムの整備と授業形式の改善

現在 2017 年度のクォーター制の導入に向けて、各単位において精力的に検討が進められています。これに際して、各学部においては、カリキュラムの整備をお願いします。クォーター制導入のメリットを最大限に活かすように、開講形態はクォーター制に対応したものを鋭意模索してください。この際に、学生に履修の道筋を明確に示すことができるよう、

各学部で開講科目を精選することを検討してください。カリキュラムを整備するにあたっては、学生や潜在的な進学者のニーズに配慮し、彼らが 4 年間で何をどのように学ぶことができるのかを具体的にイメージできるように、授業科目のナンバリングおよびカリキュラムツリーの作成等によってカリキュラムの可視化に向けた取り組みも行ってください。

カリキュラムの整備とともに、授業形式についても検討をお願いします。最重要課題で述べた学生の自主的な学びを促進するために、アクティブラーニングを採用することは、一つの有効な手段となるでしょう。カリキュラム整備を機会にその導入を積極的に検討してください。またそのための FD 研修会の実施も奨励します。

本学においては情報センターの設置や無線 LAN の整備など ICT 環境の整備が進められています。こうした環境の整備を授業にも反映させ、例えば e-ラーニングを活用するなど授業の改善に役立ててください。ICT 環境の充実はアクティブラーニング導入の一助にもなると思います。

4. 科学研究費等の積極的獲得

南山大学が研究機関としても優れた大学であるためには、教育職員の皆さんの研究成果が欠かせません。そのために、引き続き科学研究費等の外部資金の獲得を目指してください。今年度もすべての教育職員が何らかの形で外部資金の獲得に積極的に取り組んでください。その際には、科学研究費だけでなく様々な可能性を広く検討してください。

また GP(Good Practice)を中心とした各種助成金獲得のため、積極的に申請を行う必要があります。学部・研究科をはじめとする各単位において申請の可能性を検討し、準備を進めてください。外部資金獲得者の間接業務の負担を軽減するために、支援体制を充実させるように努めてください。

5. 学生支援の充実

今日、大学において、教育面に限らず、学生生活の全般に関して、その支援はますます重要なものとなっています。「人間の尊厳のために」を教育モットーとし、南山大学グランドデザインで「ユニバーサル受入れ」を謳う本学においては、障がいを持っている学生への支援は重要です。これには、精神的な障がいを持つ学生のケアや、より広くメンタルヘルスに対応した体制の整備も含まれます。こうした学生を受け入れていくため、保健センターの設置に向けた準備を進めていきます。各学部・学科においても、教務課および学生課と協力して、引き続きサポートを進めていってください。

経済的事由等により学習上の困難を抱えている学生に対しては、教育機会を均等化する観点から、適切な支援が必要です。例えば、本学では、東日本大震災に伴う特例措置とし

て、2014年度に引き続き2015年度も入学検定料や学生納入金を最大で全額免除しています。今年度も引き続き、勉学に対する意欲があり、成果を残している学生に夢を追い続けてもらい、さらにそれを奨励するために、割り当てられた予算の中で適切な奨学金を給付し、その他の支援情報も提供していきます。

他にも、留学生支援、教職を目指す学生の支援、就職支援、TA 制度など、これまで行ってきた学生支援をさらに充実させるようお願いします。

Ⅴ．社会貢献と連携

1. 社会貢献

今後も社会人を対象とする教育の需要が高まっていくことが予想されます。特に地域の方のこうした需要に応えるため、エクステンション・カレッジをさらに充実させていきます。人類学博物館は、展示品を手に取り、間近に感じることができるユニバーサル・ミュージアムであり、今後も様々な魅力的な企画を行い、開かれた博物館として、南山大学と地域をつないでいくとともに、学外の諸機関との連携を進めていきます。法曹実務教育センターも地域の方々に対する無料法律相談などを通じて、引き続き本学の知的リソースの社会への還元に努めます。

2. 産学官連携

本学における産学の連携のポリシーを策定し、今年度も同連携を発展させていきます。東海地区の企業との連携による教育および研究のプログラムを進めていきます。これは、本学がこの地域に貢献する人材を育成・輩出する大学としての役割を果たしていくうえでも重要です。例えば、名古屋銀行との協定によるインターンシッププログラムが始まりましたが、同様のキャリアプログラムの充実を図ります。またこれまで行われてきた他大学や企業、国、地方自治体、公益財団法人などとの共同研究やこれらの組織からの受託研究などを継続しつつ、新たな連携も模索していきます。

3. 災害時の危機管理体制の整備

災害時において学生や教職員の安全を確保するため、本年度も引き続き危機管理体制の整備をしていきます。また、災害時において避難場所の提供など大学が地域の中で役割を果たすことも重要な社会貢献です。すでに、本学の体育館は名古屋市から昭和区避難所に指定され、学内プールは名古屋市昭和消防署から消防水利として指定されています。近隣の名古屋第二赤十字病院とは名古屋キャンパスグランドを緊急災害時におけるヘリポート

および患者搬送に付随する業務の実施場所として提供することを取り決めています。今年度は大規模災害に備え、学生用非常食および防災用品の備蓄を計画的に進めます。今後も地域に根差した総合大学として地域を含めた危機管理対策を考え、地域社会との連携を図っていきます。

Ⅵ. 入試・就職

1. 入試

2015 年度の一般入試、全学統一入試（個別学力試験型、センター併用型）、センター利用入試（前期 3 教科型・5 教科型、後期）をあわせた延べ志願者数は、昨年度の 23,202 名に比べて 1,407 名増の 24,609 名でした。しかし、2 年連続で志願者を減らした学科もあります。今後も 18 歳人口は減少し続け、学生募集はますますその厳しさを増すことでしょう。こうした状況を踏まえて、適正な対応をとり続けることが重要です。入試種別の検討を継続することも大切ですが、志願者を確保し、そのレベルを維持し向上させるために最も必要なのは、各学部・学科が提供する魅力的なプログラムであることに変わりはありません。新学部の設置や学部・学科の改組改編は何よりもこのことを念頭において行われなければなりません。また近い将来の改組が予定されていない学部・学科においても、より魅力的なプログラムを実現するために学科・コース体制やカリキュラムの見直しを行っていく必要があります。その際、学生の自主的な学びが促進されるような制度設計を心がけてください。

2016 年度入試では、外部試験を導入し、Web 出願も開始します。今年度は、これらの変更に確実に対処できるよう慎重に準備を進めてください。

また、多様な学生の受け入れについて、今後より多くの社会人大学院生や外国人留学生を受け入れていくことも求められます。そのための「ユニバーサル受入れ」体制の構築が必要です。留学生の入試制度については、今年度から Web 出願を開始することになります。それに加えて、外部試験の導入や渡日前試験の実施など、より柔軟な入試制度への改革を今後も検討してください。

2. 就職

2014 年度は、大卒有効求人倍率が前年度に比べ大幅に増加し、就職状況の相当な改善が認められます。こうした状況を活かして、本年度も内定率 100%を目指して、努力してください。そのために、キャリアサポート委員会や就職委員会を中心に、教職センターや南山エクステンション・カレッジ委員会、各学部・学科との連携を進めて、引き続き充実した就職支援体制を築いていきます。大学院生や留学生に対しても、そのニーズを考慮した支

援を行っていきます。2016 年 3 月卒業予定者から就職活動の開始時期が変更されるため、そのための対応をお願いします。また現在進行中のキャンパス統合に合わせて、キャリア支援体制の整備を進めてください。

これとともに、学生が自主性を養うことができるような環境を整えていくことも重要です。就職活動が始まるよりも前の時点から、各学部において大学生に求められる主体性・コミュニケーション能力・考える力を養う環境が提供されるようお願いします。

Ⅶ. 広報

大学の情報発信は、大学のブランディングに限らず、社会貢献やステークホルダーとのつながりといった様々な観点からも重要な機能となっています。それを果たすために、従来型の広報に、Facebook や YouTube、スマートフォンアプリなどを活用した新しい広報手段も加えて、多様な媒体を通じた戦略的な広報を引き続き進めていってください。

「ユニバーサル受入れ」の実現のためにも、Web ページについては、英語をはじめとする外国語のホームページを充実させるようお願いします。Web ページの管理は、数年前に比べて格段に容易になっています。戦略的な広報の観点から、各学部・学科単位においても、Web ページを活用してください。さらに海外を含めた同窓会や後援会との連携も引き続き強化していきます。

こうした広報活動には構成員一人ひとりの平時の努力が欠かせません。学生の安定的な確保やさらなる外部資金の獲得、寄附金の受け入れなどの成果を上げるためにも広報活動が重要な要素となっていることをより一層認識することが求められます。

現在行っている将来構想募金をはじめとするさまざまな募金活動においても、広報が重要な役割を果たします。すべての構成員の協力を改めてお願いしておきます。